

宇和島市水道事業経営戦略 (令和3年1月見直し 概要版)

(内容)

下記4項目の目標値における、H31年度実績値及びR5年度見込値

①管路更新率

②有収率

③企業債残高及び企業債残高対給水収益比率

④内部留保資金

その他参考資料

①当年度純利益の推移

②平成30年7月豪雨災害の影響見込

①管路更新率

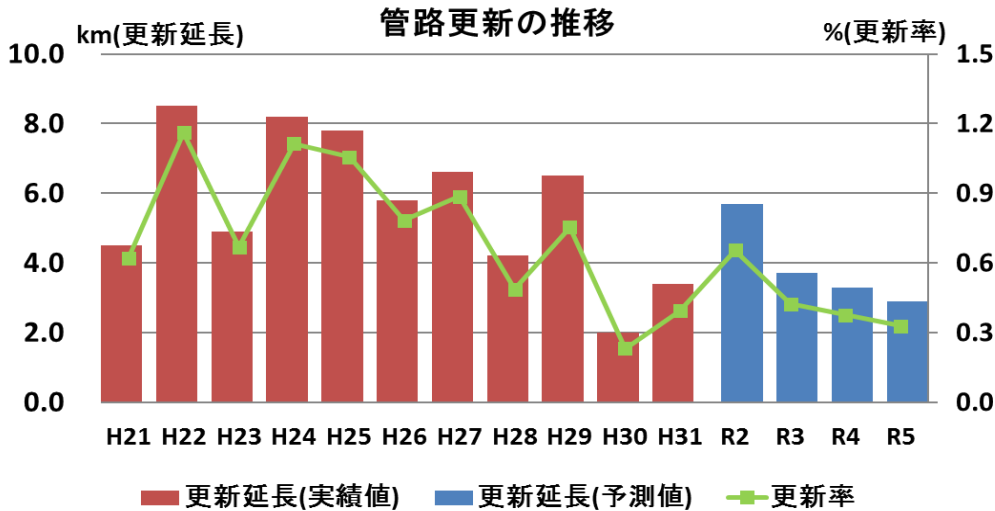
目標値

管路更新率を現状
(H21-H28平均 年0.85%(6.3km))
以上に引き上げる



実績値

H29-H31 年平均0.46%(4.0km)
予測値
H29-R5 年平均0.45%(3.9km)



○豪雨災害の影響等により更新が滞っており、今後より一層の更新を目指す必要がありますが、第7次整備事業における全体事業費はH21年度からR5年度までの15年間で110億円であり、今後実施予定の浄水場施設整備事業等、緊急度の高い事業費が増加したため、管路更新事業の一部は令和6年度以降の次期計画に盛り込む予定です。

②有収率

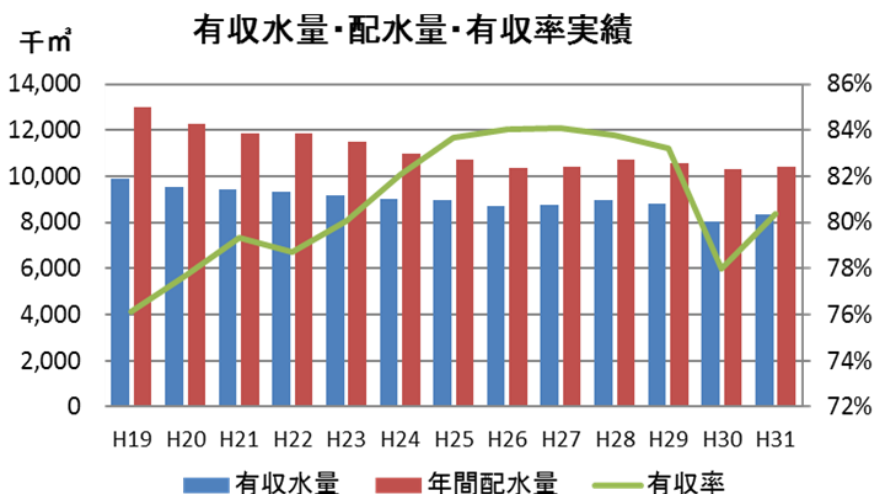
目標値

R5年度末90%以上



実績値

H31年度決算値 80.4%
予測値
R5年度見込値 90.0%



○H28年度の簡水統合及びH30年度の豪雨災害により、H30年度には78.0%まで減少しましたが、H31年度には80.4%まで回復しました。

○目標達成に向け、計画的な漏水調査や事故管路の更新を強化していきます。

③企業債残高及び企業債残高対給水収益比率

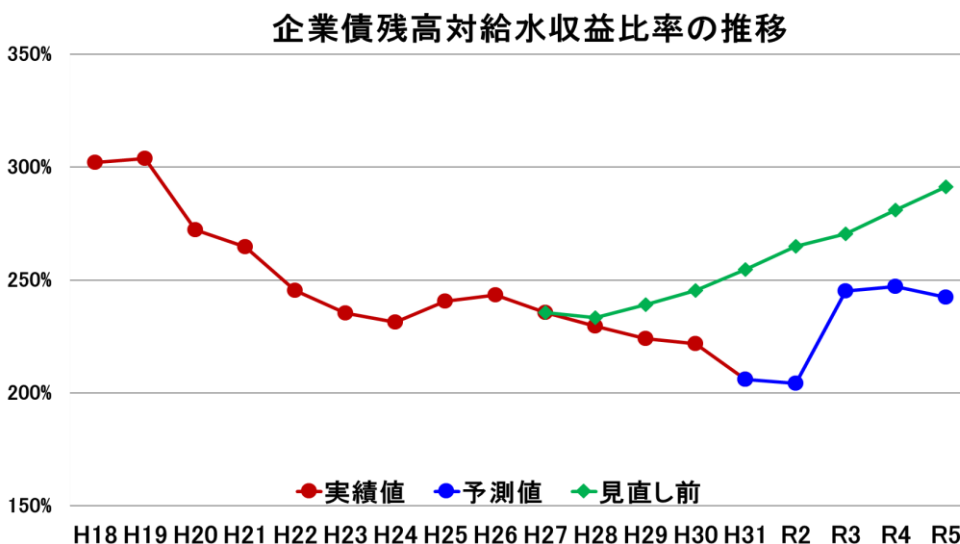
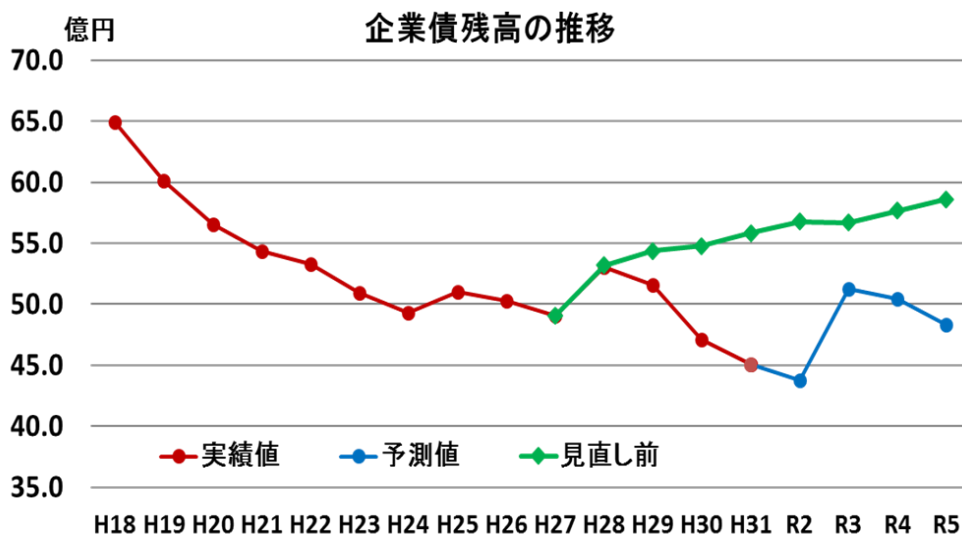
目標値

R5年度末の企業債残高
60億円以下かつ
企業債残高対給水収益比率
300%以下



実績値(H31年度決算値)

企業債残高 45.0億円
対給水収益比率 206.0%
予測値(R5年度見込値)
企業債残高 48.3億円
対給水収益比率 242.4%



- 企業債残高及び企業債残高対給水収益比率ともに、目標を達成見込です。
- 内部留保資金の増加及び、津島水道企業団との統合による企業団借入金の合算を見据え、借入を抑制したことにより、数値は見直し前より改善しました。
- R2年度は次年度への繰越が多いため、低い値となっていますが、R3年度以降は上昇に転じていきます。
- 今後も内部留保資金とのバランスに注意しながら、適切な借入に努めます。

④内部留保資金

目標値

R5年度末 6億円以上

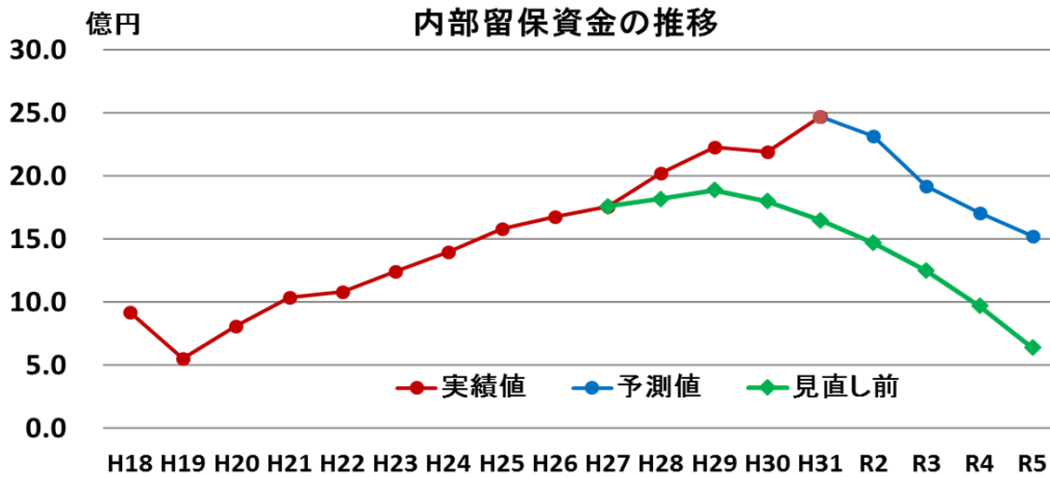


実績値

H31年度決算値 24.7億円

予測値

R5年度見込値 15.2億円

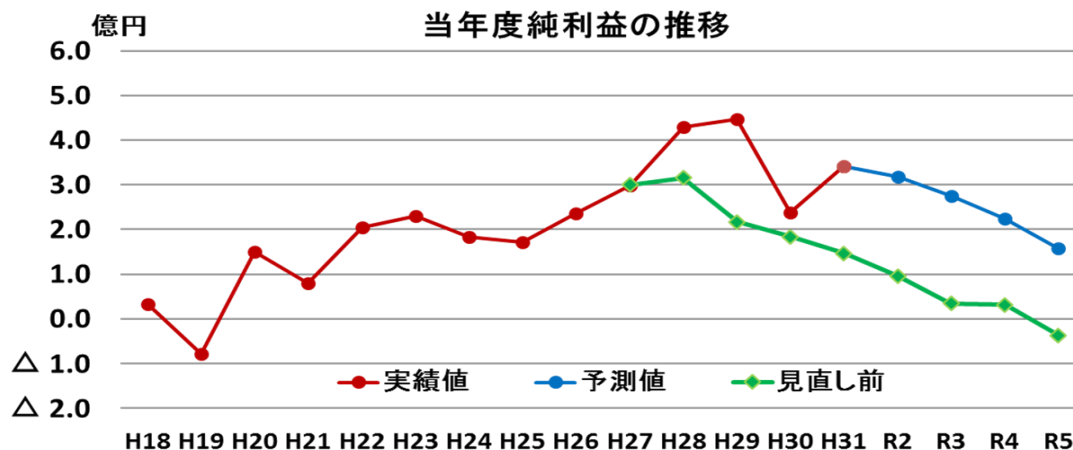


○当年度純利益が想定より改善したこと等から、見直し前より数値は改善し、目標を達成見込です。

○H31年度は次年度への繰越が多くピーク値を示していますが、その後は減少に転じます。

○R6年度以降も内部留保資金は減少を続けるため、適正な料金水準及び企業債残高とのバランスに引き続き留意していきます。

(参考①) 当年度純利益の推移



○費用が想定より減少したこと等により、見直し前と比較して純利益は改善していますが、給水収益の減少は続いており、今後も純利益は減少が見込まれています。

(R5年度純利益 見直し前△3,700万円 見直し後+1億5,800万円 差額1億9,400万円)

○費用については下記項目において、見直し前と比較して減額が大きくなっています。

(※数値はR5年度における見直し前との差額。収益も同様。)

- ・支払利息 △5,200万円 企業債の借入額減少及び借入利率の低下によるもの。
- ・柿原浄水場運転管理業務委託 △4,200万円 H30年度からの第三期運転管理業務委託において、第二期から20%程度の増加を想定していたが、実際はほぼ変わらない金額となったもの。

○収益については、見直し前と比較して、給水収益はほぼ見込み通りですが、豪雨災害の影響による国庫補助金の増加により、長期前受金戻入が+4,200万円と大きく増加しています。

○純利益は、見直し前は令和5年度での赤字を見込んでいましたが、現時点では令和8年度までは黒字が続き、令和9年度からの赤字となる見込みです。

(参考②) 平成30年7月豪雨災害の影響見込

平成30年7月豪雨災害の影響見込

歳出の増加 約8億 200万円

【主な内訳】

被災施設の復旧	7億3,600万円
応急給水・応急修繕	1億 200万円
受水費の減	-3,600万円

歳入の増加 約4億9,400万円

【主な内訳】

国庫補助金	4億1,600万円
一般会計繰入金	1億9,200万円
料金収入の減	-1億1,400万円

差引 約3億 800万円 = 水道局の実質的な影響額

(うち平成30年度損益計算書に係る影響額 約1億4,600万円)

○現時点で全ての災害復旧工事が完了したわけではありませんが、収益的収支と資本的収支を合計した影響見込額は、約3.1億円のマイナスと試算しています。